

卷頭言

Preface

岸井 隆幸¹

By Takayuki KISHII



昨年2018年は明治改元から150年目であったが、今年2019年は都市計画法・道路法・市街地建築物法が制定されてから100年、そして「令和」改元の年となった。我々の計量計画研究所(IBS)が誕生したのは「昭和」の時代、先の東京オリンピックが開催された1964年7月のことである。以来55年間、コンピュータ技術の進展を背景に、様々な交通解析、都市分析、計画立案に取り組んできたが、気が付けば、我が国の近代都市計画行政あるいは近代道路行政の過半(100分の55)に寄り添って生きてきたことになる。長いお付き合いであるといえよう。

一方、世界を見るとこの50年の変化は極めて激しい。IBS誕生から11年後の1975年にMicrosoftが、翌年1976年にAppleが、1994年にAmazonが創業している。そして1995年にWindowsが発売されてコンピュータが一気に身近なものとなり、1998年にGoogleが、2004年にFacebookが登場した。こうしたIBSより若いICTを活用する企業群(束ねてGAFAと呼ばれる)は飛躍的に発展して、今や彼らによって世界が動かされるようになった。

GAFAはプラットホームを提供しつつ大量のデータを入手できる仕組みを有している。このBIG DATAに対する世間の期待は極めて大きい。しかし、いかに分析技術が進展しても、デジタル情報自身は記号の羅列にすぎず、意味を見出し受け止める感受性がない限り何ともならない。しかも今のICTは双方向性を有しており、誰もが世界に自由に発信できる状況を生み出した。したがってNET上では「意図をもって操作された情報」が紛れ込む危険性も高い。SNSすら信頼できるという保証はなく、誰かが悪意を持って取り組めば「誤った情報」を次々と送り込むこともできる。結局、情報満載の世界では多くのDATAがあったとしても、最終的な意思決定に際しては信頼できる人々の意見に耳を傾けるという傾向が強くなつてゆく。つまり「信頼できる人々が信頼する人たち」の集まる場所がこれまで以上に重要であり、「FACE TO FACEの聖地」の構築競争が始まる可能性が高い。

我々IBSの組織は必ずしも大きいものではないが、昨年、これまであった8つの研究室体制を「都市地域・環境部門」「交通・社会経済部門」という2つの部門に統合した。同時に、担当するテーマ分野の企画戦略、業務執行を統率・管理するグループマネジャー(GM)という立場を設け、多数の若手研究員を登用することとした。より柔軟に、より能動的に動く組織を目指したつもりで、あれから1年、まだその成果を問うには早すぎるが、まずは順調な滑り出しあることは報告できるように思う。若い人たちが自主的、能動的に動くことで「信頼できる人々の集積の場」の新たな生成・更新・進化が進むことを期待したい。

もちろん、社会の変化は止まるところがない。我々IBSは少しでも社会の動きに先んじた活動をしてゆきたいと考えているが、そのためにも様々な分野の方々と「信頼に基づく連携」を強化して次のまだ見ぬ新しい世界に挑戦したい。IBSはFACE to FACEを大切にし、様々な異なる分野、異なる立場の方達と膝を交えた議論をしたい。「信頼」が次の世界を生み出す。

IBSがGAFAと連携して次の50年につながる世界を切り開く、そういうシーンも必ずしも夢ではない。

¹一般財団法人計量計画研究所 代表理事 博士(工学)

